



セミナー

セミナー「自主ルールを用いて自然をまもる方法」



©O.Makishi

主催：沖縄生物・多様性市民ネットワーク アオサンゴ作業部会

共催：北限のジュゴン調査チーム・ザン、沖縄生物・多様性市民ネットワーク、
日本自然保護協会（NACS-J）

後援：沖縄県環境生活部、沖縄県サンゴ礁保全推進協議会



©O.Makishi



*この催しは平成 23 年度沖縄県サンゴ礁保全活動自然事業助成金の支援を受けています。

セミナー「自主ルールを用いて自然をまもる方法」

自然を守る方法にはさまざまなものがあります。法律で守られるのが一番確実かもしれませんが、法の網がかかるのを待っているでは守れない地域も日本にも多くあります。

小笠原諸島、北海道の知床や沖縄の慶良間諸島などは地域住民が主体となって導入した自主ルールにて豊かな自然が保護されています。今回のセミナーでは小笠原諸島の南島をはじめとする地域で、自主ルールの制定や進捗に関わってきた中井達郎さんを講師にお招きして、これらの地域での自主ルール制定に至るまでのご経験や克服すべき課題などのお話を伺います。

その後、自主ルールの導入を検討している沖縄県東海岸に住んでいる人たちを招いてディスカッションを行い、東海岸の自然をどうしたいか、どのようになって欲しいか、話しあっていきたいと思います。自然を守ることや自然と一緒に生きていくことに興味がある人はどなたでも大歓迎です。お気軽にお越しください。



<プログラム>

13:00 開催あいさつ 牧志治

(沖縄・生物多様性市民ネットワーク アオサンゴ作業部会代表)

13:05 第1部：講演

「自主ルールを用いた自然の守り方」(日本自然保護協会理事/国士舘大学 中井達郎)

14:00-14:20

「東海岸の海について～チリビシのアオサンゴ群集と海草藻場～」

(日本自然保護協会/沖縄・生物多様性市民ネットワーク

アオサンゴ作業部会 安部真理子)

14:20-30 休憩

14:30-16:00 第2部パネルディスカッション「沖縄島東海岸の未来について考えよう」

パネリスト 東恩納琢磨 (じゅごんの里代表/名護市議)

浦島悦子 (北限のジュゴン調査チーム・ザン)

中井達郎 (日本自然保護協会理事/国士舘大学 中井達郎)

安部真理子 (日本自然保護協会/沖縄・生物多様性市民ネットワーク)

ファシリテーター： 中野義勝 (琉球大学/沖縄県サンゴ礁保全推進協議会)

16:00 閉会の挨拶 吉川秀樹 (沖縄・生物多様性市民ネットワーク代表)

16:05 終了・閉会

写真：牧志治撮影



講演者 プロフィール



◆中井達郎（なかい たつお） 国士舘大学/NACS-J 理事・沿岸保全管理検討会

1955 年、東京生まれ。東京都立大学理学研究科博士課程修了。博士（理学）。専門は自然地理学、サンゴ礁地理学、自然環境保全。（財）日本自然保護協会に 18 年間勤め、研究部長や普及教育担当部長を務める。その間、レッドデータブックの作成や原生自然環境保全地域の調査、さまざまな自然保護問題（石垣島白保サンゴ礁問題、長良川河口堰問題、小笠原空港問題など）などを担当する。現在も沖縄や小笠原、群馬県三国山地などで、生物多様性保全と持続可能な地域づくりにかかわる活動を行っている。

国士舘大学・江戸川大学・甲南大学などで非常勤講師。（財）日本自然保護協会理事。日本サンゴ礁学会保全委員会、安全委員会委員。日本地理学会ジオパーク対応委員会委員。

◆浦島悦子（うらしま えつこ） フリーライター

1948 年鹿児島県生まれ。九州大学文学部卒業。1990 年より沖縄在住。98 年より名護市東海岸に住む。「北限のジュゴン調査チーム・ザン」メンバー。「沖縄・生物多様性市民ネットワーク」会員。名護市史編纂調査員。東海岸の住民で作る「へり基地いらない二見以北十区の会」共同代表。著書に『やんばるに暮らす』『シマが揺れる』、辺野古 4 部作（最新刊は『名護の選択』）ほか。

◆中野義勝（なかの よしかつ） 琉球大学/沖縄県サンゴ礁保全推進協議会会長

琉球大学大学院理工学研究科生物学専攻修了（理学修士）。サンゴの生物学とサンゴ礁の生態学、人とサンゴ礁の関わりの基礎についての理解とその展開として環境教育などを通してサンゴ礁保全に取り組んでいる。琉球大学熱帯生物圏研究センター技術専門職員。

沖縄県サンゴ礁保全推進協議会会長、日本サンゴ礁学会サンゴ礁保全委員会委員長。

◆東恩納琢磨（ひがしおんな たくま） 名護市議/じゅごんの里

1961 年に名護市瀬嵩に生まれる。測量士補の国家資格を取得し、建設会社に勤務。1997 年退社し、ジュゴン保護基金委員会を設立、事務局長に就任。2000 年にじゅごんの里を開設し、修学旅行生などに大浦湾の海を見せてきた。10 年間で全国からじゅごんの里に訪れた修学旅行生のは数は 5,000 人以上。2008 年より名護市議会議員に当選。教育民生委員会に所属。

○じゅごんの里 <http://dugongnosato.jp/default.aspx>

◆ 牧志 治（まきし おさむ） 写真家

沖縄・生物多様性市民ネットワーク会員（アオサンゴ作業部会代表）、沖縄リーフチェック研究会会員（チーム科学者）。ダイビング指導員を20余年務め、現役から数年前にリタイア。2004年から辺野古・大浦湾をフィールドに写真の撮影活動をしている。

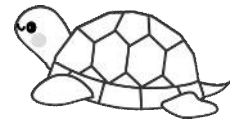
1950年、コザ市（現沖縄市）生まれる。高校卒業後に本土に渡り、業界紙の記者、コピーライターを経験。帰郷後にダイビングの指導員やガイドダイバーを20余年務めてリタイア。現在、辺野古・大浦湾をフィールドに写真の撮影活動をしている。

◆ 安部真理子（あべ まりこ）日本自然保護協会 保護プロジェクト部

大学、大学院にて生物学と生化学を専攻し、WWFジャパンに8年間勤務。オーストラリアのジェームズクック大学院修士課程に留学し、続いて琉球大学博士課程にてアザミサンゴの多様性に関する研究で博士号（理学）を取得。1997年に日本国内でのリーフチェック立ち上げに関わった一人であり、以来コーディネーターをつとめている。沖縄リーフチェック研究会会長、日本サンゴ礁学会評議員・保全委員会委員、沖縄県サンゴ礁保全推進協議会理事。2010年4月より日本自然保護協会にて沖縄の問題や日本の沿岸の問題を担当している。



～講演要旨～



「自主ルールを用いた自然の守り方」

日本自然保護協会理事/国土舘大学 中井達郎

自然を守るということはどういうことなんだろう？それは、自然の豊かさを失わないような人間の自然利用と自然との関係を作っていくことだと考える。そしてこのような関係を保ち、暮らしていけるような地域を作っていくことである。人間も他の生物と同じように自然がなくては暮らしていけない。自然の豊かさを失うことは、さまざまな生物、そして人間の暮らす場を失うことである。

ではどのようにしたらこのような人間と自然の関係を作っていけるのだろうか？さまざまな規模の大きな開発行為をめぐる反対運動も、自然観察会などの環境教育も目指すところはこのように人間と自然の関係づくりである。世の中の多くの人々がこのような関係を作っていくことを必要だと考えるようになることが下地となる。そしてルールが必要である。

ルールには、いくつかの段階がある。国際的には「条約」、国内では「法」、都道府県・市町村では「条例」。しかしそれだけではない。その地域に住む人々によって自主的に作られるルールも非常に大切である。それは、その地域の自然と昔からつきあってきた中で、その自然を知り、つきあい方も経験知として知っている人々だからである。確かに現代の自然利用のやり方は伝統的な自然利用と大きく異なる点が多々ある。しかし、だからこそ、地域の人々が、経験知もふまえ、地域に合ったルールを作っていくことが必要なのである。地域の人々自身が自然を守る担い手となることが必要なのである。

講演では、小笠原諸島など私がかかわりをもった地域の例も交えながらお話しする。

「東海岸の海について～チリビシのアオサンゴ群集と海草藻場～」

日本自然保護協会 保護プロジェクト部 安部真理子

海草藻場が豊かに広がっている辺野古や嘉陽の海。ここにはジュゴンが暮らしています。また 2007 年まで発見されることのなかった大きなアオサンゴ群集も眠っています。生物多様性豊かな海の様子を、NACS-J（日本自然保護協会）の調査データを交えながらご紹介します。



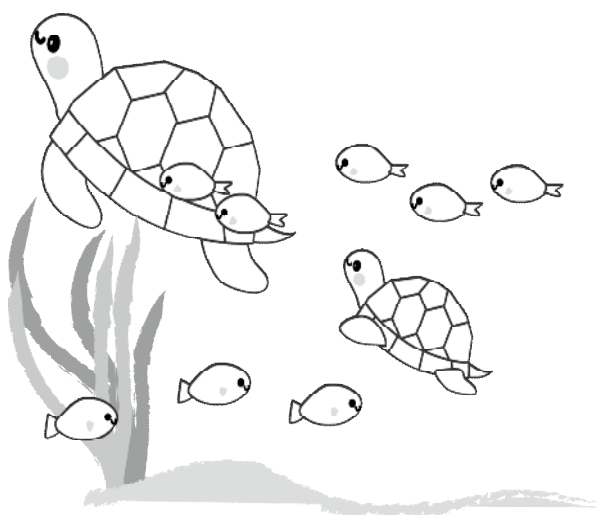
©O.Makishi



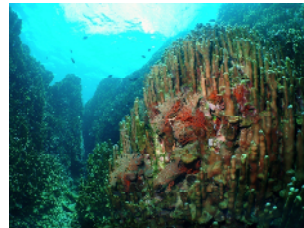
©すなつくスナフキン



©NACS-J



注) イラストは以下のサイトからお借りしました
<http://www.wanpug.com/illust138.html>



©O.Makishi

沖縄・生物多様性市民ネットワーク アオサンゴ作業部会について

沖縄・生物多様性市民ネットワーク（以下、沖縄 BD と略）は、「平和」「人権」「環境」を、この小さな島の大きな資源として、育み、守っていくために、思想、信条、民族を大切にしつつその壁を越えた、豊かな関係性の中で、生きていくためのネットワークを、2010 年に名古屋で行われた生物多様性条約第 10 回締約国会議（COP10）に向けて作りました。

その中で、特に大浦湾のチリビシのアオサンゴ群集について興味をもつメンバーが集まり、アオサンゴ作業部会（正式名称：大浦湾チリビシのアオサンゴ作業部会）を立ち上げました。

沖縄 BD が 2009 年に結成して、最初に取り組んだのが、大浦湾チリビシのアオサンゴの天然記念物申請の支援でした。天然記念物申請の後、アオサンゴの大規模な白化現象が起こり、また元通りになるのを見守ってきたりと、いろいろ心配なことが起こりましたが、ここに関わった人はみんな、大浦湾に行かなくとも、アオサンゴが元気かどうか、心にとめながら、過ごしていると思います。

COP10 をきっかけに、より多くの人がアオサンゴはみんなの宝、と思ってくれたのではないのでしょうか。

【COP10 で決まった愛知ターゲットとの関連テーマ】

海洋保護区 10%、脆弱な海洋生態系の保全

【キャッチフレーズ】

議長国の海洋保護区の中で進む埋め立て計画～矛盾を正せ！

【設置趣旨】

大浦湾チリビシのアオサンゴ群集を沖縄 BD サポートのもと、地元の 3 団体が天然記念物指定に向けて陳情を行っている。これを進めつつ、アオサンゴ群集のみならず、辺野古・大浦湾に広がる豊かな海域を保全していくために、特に同海域に思いいれのあるメンバーで作業部会を設立した。

【ウェブサイト】

沖縄 BD 内 <http://okinawabd.ti-da.net/>

【連絡窓口】

牧志治 makishiosamu@gmail.com